

### 第3学年 国語科学習指導案

天理市立福住小学校

教頭 笹尾 美香

1. 単元名 「つたえたいことを、理由をあげて話そう～福住のじまん～」

#### 2. 単元の目標

○考えとそれを支える理由や事柄、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 【知識及び技能(2)ア】

○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。 【思考力・判断力・表現力A(1)イ】

○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。 【思考力・判断力・表現力A(1)ウ】

○進んで言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意し、学習の見通しをもって、グループで練習し、発表しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

#### 3. 単元について

##### (1) 教材観

本単元では、光村図書3年下「わたしたちの学校じまん」を活用し、「学校自慢」を「地域自慢」に代えて教材とする。

「地域の自慢」として挙げたものを学級で分類整理し、自分が発表したい事柄ごとに、グループを編成する。

本単元での重点的な学習内容は「話すこと」であるが、グループで活動に取り組むことで、「話すこと・聞くこと」の全ての学習過程に関わることになる。そして、相手や目的をどのように設定するかによって、発表原稿の構成も変わってくる。「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の指導事項を連動させ、主張を伝えるために、「初め」「中」「終わり」の構成を基に、「中」では複数の理由で主張を支えるという論理構成を意識させる。

また、教科書P.119「発表のれい」にある「強弱・抑揚・間」といった話し方の工夫や、指導用音声CDによる発表モデルを活用し、相手に分かりやすく発表する方法を習得させるのに効果的な教材である。

##### (2) 児童観

本学級の児童は、自分が学んだことや感じたことを伝えることはできるが、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えて話すことが難しい。また、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することにもあまり慣れていない。この単元学習を通して、それらの力を身に付けさせたい。

##### (3) 指導観

1・2年生時の生活科や福住学(総合的な学習)、社会科等で、自分たちが住む地域・福住を

知り、よさを体感してきている。「地域の自慢」を調査したり、情報収集したりする学習は、他教科・領域で行い、この単元では、発表の構成や練習に重点的に取り組む。

また、発表準備の過程や他グループの発表を通して、さらに多くの「福住のじまん」を発見し、さらに深く「福住のじまん」を感じてほしい。その実感を基に、『わたしたちのじまんの福住』を守るために、わたしたちができること・すべきことは何かについて考えさせ、考えたことを実行する力を身に付けさせたい。

#### (4) ESDとの関連

##### ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ① 多様性…福住に感じているよさは、人それぞれ様々である。
- ② 相互性…福住の豊かな自然は、生態系・経済・生活スタイル・歴史等と密接な関係があり、福住のよさ（自慢）として、大きな魅力であることに気付く。

##### ・本学習で育てたいESDの資質・能力

システムズシンキング…「福住のよさ」を、理由や根拠となる資料と結び付けて考え、理解する力

コミュニケーション力…グループで発表をまとめたり発表したりする際に、友達の意見を共感的に聞いたり、自分の意見を相手に分かりやすいように発信したりする力

協働的問題解決力…友達と協力して発表原稿を作り、発表会に取り組む力

##### ・本学習で変容を促すESDの価値観

- ③ 自然環境・生態系の保全を重視する価値観  
福住のよさを守るために、自分たちができることは何か考え、実践し、実践したことや実践してほしいことをまわりに広め、啓発していく意欲をもつ。
- ④ 幸福であることを大事にする価値観  
現在生活している環境や通学している学校環境を見つめ、よさを見つけることで、今の自分の幸福を実感する。

##### ・達成が期待されるSDGs

- 11 持続可能な都市・まちづくり
- 15 陸上資源・陸の豊かさ

#### 4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事柄、全体と中心など情報と情報との関係につ	①相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう	①進んで言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意し、学習の見通しをもって、グループで練習し、発

いて理解している。	話の構成を考えている。 ② 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。	表しようとしている。
-----------	--	------------

## 5. 単元の指導計画（全8時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
一	1 ○全体で「福住のじまん」を出し合い、分類整理する。  ○学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○発表相手や目的を全体で確認し、グループ発表する自慢を決める。 2 ○自分が発表したい事柄ごとに、発表グループを構成し、活動の計画を立てる。	・「福住のじまん」を考える上で参考になる成果物（他教科・領域）を準備させ、参考にさせる。	△ウ① （主体的）
二	3 ○自慢する理由を決めて、資料を集める。 4 ○話の組み立てを考えて、発表原稿を作成する。 5 ○発表の工夫を考えて、グループで練習する。 6 ○グループ同士で聞き合い、助言し合う。（発表リハーサル）	・理由を決める観点を共有してから話し合わせる。 ・P119「発表のれい」のよいところを挙げさせ、構成をつかませる。 ・付録CDの音声資料を聞いて、発表の工夫について考えさせる。 ・付録CDの音声資料などを参考に、助言する観点を確認する。	△ア① （知・技） △イ① （思判表） △イ② （思判表） △ウ① （主体的）
三	7 ○『わたしたちの福住』をじまんする発表会を行う。  8 ○発表会を振り返って、他のグループの発表について感想を述べ合う。 ○単元の学習を振り返る。	・発表会の後に振り返りを行うことを伝え、他のグループの発表を聞く観点を確認する。 ・「わたしたちの」という発想を大切にさせる。 ・友達からもらった感想を受けて、グループごとに自分の発表を振り返り、自己評価させる。 ・「たいせつ」や「ふりかえろう」を基に学習内容を確認させる。 ・「福住の自慢」について感じたこと	△イ①② （思判表）  △ウ① （主体的）  △ウ① （主体的）

		や考えたことを書かせ、他教科・領域での学習にもつなげる。	
福住学にて	○『わたしたちのじまんの福住』を守るために、わたしたちができること・すべきことは何か」を考える。	・本単元で再発見した「福住のよいところ」を確認し、今後の学習活動（福住学）の見通しを立てるよう促す。	